

検討を進めるうえでの 大切にしたいこと

子どもたちが、確かな学力と生きるための力を
身に着けることのできる教育環境であること

地域とともに歩んできた、飯田型コミュニティスクール（※1）や
小中連携・一貫教育（※2）の特色を生かした学校づくりであること

将来この地域の担い手となる子どもたちのために、
子どもたちが主役となる学校づくりであること

※1 飯田型コミュニティスクール 家庭、地域、学校が“目指す子ども像”を定め、そのめざす子ども像に
向かって、三者が相互に承認・評価し合い地域住民が積極的に
学校の活動に参加・協働していく飯田ならではの学校のしくみ。

※2 小中連携・一貫教育 小中学校が互いに情報交換や交流を通じ、小学校から中学校への円滑
な接続を目指すと共に、目指す子ども像を小中学校が共有して、子どもたち
が9年間を通じて系統的な学びを行えることを重視した教育。

飯田型コミュニティスクールの 取組事例

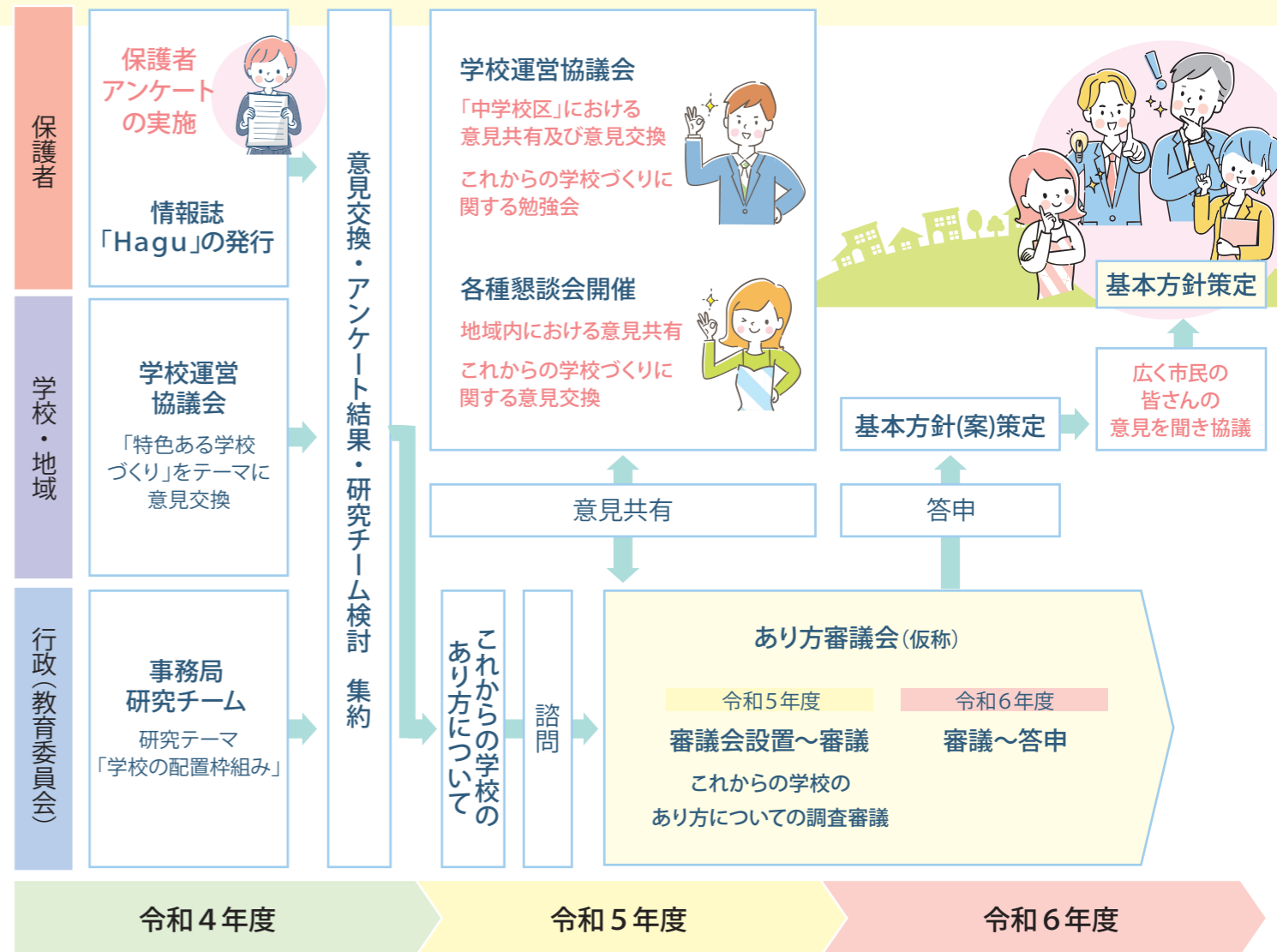
小中連携・一貫教育の 取組事例

「鼎中学校区における外国語・英語教育の取組」

鼎小学校と鼎中学校では、授業の中で、「small talk」（身近な話題について自分の気持ちや考えを英語でやり取りする活動）に継続的に取り組んでいます。その際、鼎小学校が「表現のヒント」として使用している「ワクワクフレーズ」を、鼎中学校でも活用するようにしています。また、中学校の英語科教員が小学校の外国語の授業を参観することで、授業の様子や児童の実態を把握し、中学校での指導に生かすといった取り組みを行っています。

このように、小学校と中学校が学びや学び方を連携していくことで、子どもたちが小中の授業にギャップを感じることなくスムーズに学習を進めることができます。また、校種をまたいで長期的に資質・能力の育成していくことにもつながっていきます。

今後の検討の進め方



12月
実施予定！

アンケートへの ご協力をお願い

アンケート調査を
12月に実施予定!

特色・魅力ある学校づくりに向け、保育園・幼稚園（年長・年中）や小中学校の保護者を対象にしたアンケート調査を12月にします。皆さんの声をお聞かせください。

本パンフ「Hagu」を
ご参考にしてください!

アンケート内容にはこの「Hagu」を見て答えていただく設問もあります。



このパンフを
保存して
おいてください！

学校づくりに活用
させていただきます!

アンケート結果は、飯田らしいこれからの学校づくりに向けて「保護者の声」として有効に活用させていただきます。



時代に沿った これからの学校って？

小中連携・一貫教育を 更に進めた学校づくりって？どんなの…？

・・・例えば県内外の事例としてこんな学校が考えられます。

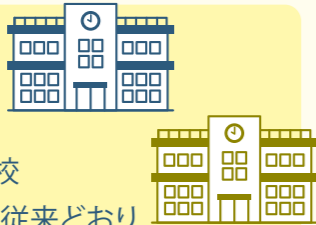
小中一貫学校・義務教育学校

小中一貫学校

小中学校としての教育課程や学校組織や教員配置は従来どおりですが、小中学校9年間の教育目標の設定、9年間の系統性を確保した教育課程の編成、一貫教育の実施に必要なカリキュラムの創設ができる学校です。小中学校毎に校長や教職員が組織されます。

《特徴》

(例：施設分離型)



- ・中学校1校に小学校1校
- ・教員配置/学校組織は従来どおり
- ・校長は各校に配置
- ・一貫教育に必要なカリキュラム創設

《県内の事例》

- ・佐久穂小中学校(佐久穂町)
- ・両小野小中学校(塩尻市・辰野町)

義務教育学校

小中連携・一貫学校における義務教育課程の編成や学校組織までも見直した学校で、教育課程は従来の6-3制から4-3-2制や5-4制のように弾力的な設定が可能であり、発達段階に応じたカリキュラムの編成ができます。一人の校長で一つの教職員が組織されます。

《特徴》

(例：施設一体型)



- ・施設一体型又は施設分離型
- ・教育課程は弾力的な設定が可能
- ・校長は1人、教職員組織もひとつ
- ・発達段階に応じたカリキュラム編成

《県内の事例》

- ・信濃小中学校(信濃町)
- ・根羽学園(根羽村)
- ・美麻小中学校(大町市)
- ・檜川小中学校(塩尻市)

※小中一貫校、義務教育学校共に施設分離型と施設一体型があります。



ハガム

2022.11
特別号

17

飯田市教育委員会が届けます子どもをばぐむ情報誌

2022年11月19日発行 飯田市教育委員会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534 ☎0265-22-4511

ハガム

飯田市
教育ビジョン

地育力による
未来をひらく
心豊かな人づくり

～子どもたちを真ん中においた～

これからの学校づくり

について検討を進めています

飯田市では少子化や学校施設の老朽化などが急速に進んでいます。このような中で飯田市教育委員会では、児童生徒が主役となるこれからの学校のあり方についての検討を行っています。「子どもたちを真ん中においた

これからの学校づくり」に向け、昨年度から、各学校運営協議会での話し合いをスタートし、子どもたちを主役に、皆で知恵を出し合いながら、よりよい教育環境づくりへ向けて検討を進めています。今年度は、子どもたちの学びの場づくりについて保護者アンケートを実施します。ご協力をお願いします。

アンケートを
実施します！
ご協力をお願いします！

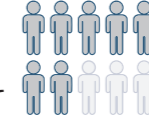


学校を取り巻く現状、子どもたちへの影響

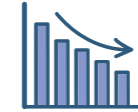
児童生徒数の減少

- ・ピーク時(H5)の11743人からR4は7783人へと激減(約30年で3割以上減少)
- ・毎年100人超のペースで少子化が進行しており、R9には7000人を下回る予測

約30年で
30%以上減



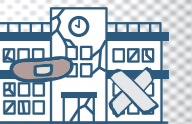
毎年100人超の
ペースで少子化



校舎の老朽化の進行

- ・施設改修や改築の周期とされる築50年を経過した学校が全体の1/3を占める
- ・校舎の改修や老朽化した施設の管理には膨大な費用が必要

築50年経過の
学校が全体の1/3に



子どもたちや教育活動への影響

- ・限られた人間関係の中での学び
- ・クラス構成の変化(2つの学年を1つにした複式学級やクラス替えできない学校の増加)
- ・教職員数の減少(学級数が配置基準となる音楽や家庭科を担当する教員不足や中学校教科担任の不足)
- ・部活動の選択肢が減少(チーム競技で人数がそろわない等)
- ・教育活動費の圧迫(施設整備費用の拡大)



より詳しくは
ウェブサイト
でご確認下さい

<https://www.xxxxx.xxxxx>

保存版
後日配布される
保護者アンケートに
ご回答いただく際にお使い下さい